

- ・ 鎌倉淡青会公開セミナー
- ・ 2022年10月25日

平田恵美（鎌倉市中央図書館近代史資料室）

大船田園都市を考える

1. 現在の大船＝大船駅周辺の再開発

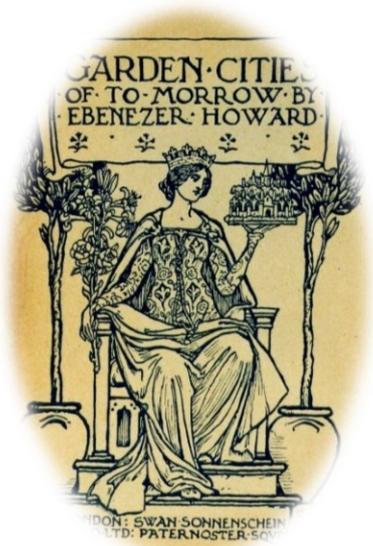
- 平成5年9月（1993年）
「大船駅周辺地区整備連絡協議会」設立
- 平成6年7月（1994年）
「大船駅周辺地区都市（まち）づくり基本構想」
- 平成7年6月（1995年）
「鎌倉市まちづくり条例」制定
- 平成8年2月（1996年）
「大船駅周辺地区都市（まち）づくり基本計画（案）」

大船駅直近地区

- * 大船駅西口
- * 大船駅東口
- * 大船駅北口
- * 南部地区

芸術館周辺地区

- * 教育文化ゾーン
- * 砂押川プロムナード

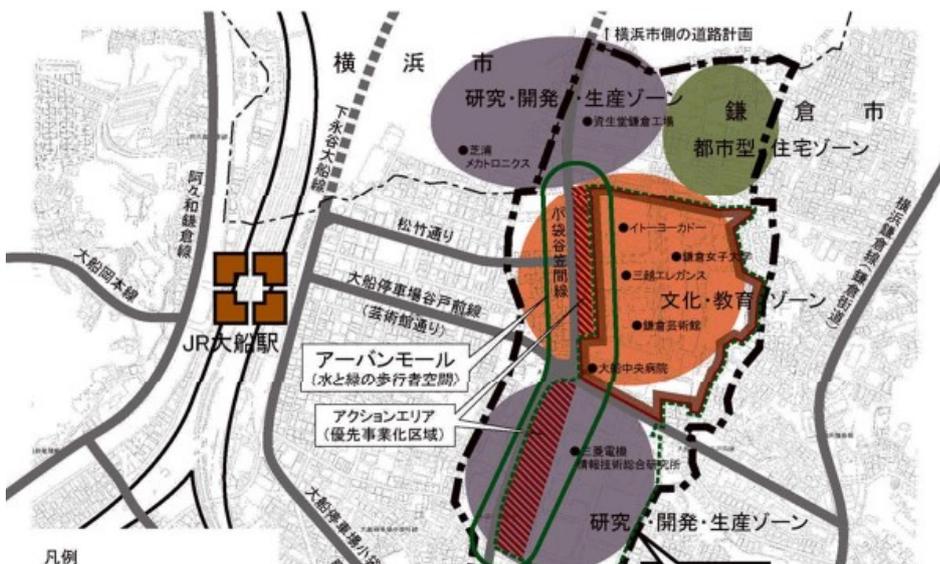


ウォルター・クレーン画

大船駅東口第2地区予定図



鎌倉芸術館周辺地区のまちづくり検討図 平成8年



資生堂鎌倉工場跡地
岩瀬一丁目公園

まちの記憶「資生堂鎌倉工場跡地」

この辺りから大船駅方面にかけては、大正時代末期まで、離れ山の山並みに沿った一面の水田地帯でした。明るく清浄な空気につつまれた約 10 万坪の広い土地と東京との鉄道交通の利便さから、「大船田園都市株式会社」が、この地に理想的なまちづくりを計画しました。

当時、英国から世界に広まった「田園都市構想」の舞台として、大正 11（1922）年以降、田圃を埋立て、「新鎌倉住宅地」建設が始まりました。それには地主たちも協力し、順調な滑り出しでしたが、関東大震災や昭和金融恐慌の影響を受け、完成を見ることなく昭和 3（1928）年に終焉を迎えました。現在の大船の街区などにその名残が見られます。

昭和 9（1934）年になると、未着手の土地七万坪を「松竹映画都市株式会社」が購入し、大船撮影所を中核とする宅地分譲を手がけました。なかには有名な俳優の家やなじみの飲食店も建ちました。当時の大船町も町有地 2 万坪を寄付、9 万坪の大規模開発でしたが、途中で一部は工場用地に転換され、昭和 34（1959）年創設の資生堂鎌倉工場など、数社が撮影所周辺に立地しました。

資生堂は、日本初の民間調剤薬局として明治 5（1872）年に銀座で創業、同 30 年以降は世界的な化粧品メーカーとして、海外にも工場を拡大しました。そして資生堂鎌倉工場は、平成 27（2015）年まで、工場見学や施設開放などの地域貢献をおこない、ここ大船一帯のまちづくりにも深くかかわってきました。

この場所は、その跡地であり、この地でこのたび行われた開発行為にともない鎌倉市が提供を受けた公園です。

鎌倉市（2019 年）

2. ガーデンシティの誕生

田園都市の定義 1919 年 都市計画協会による一田園都市は健康的な生活と産業のために設計された町である。その規模は社会生活を十二分に営むことができる大きさであるが、しかし大きすぎることはなく、村落地帯で取り囲まれ、その土地はすべて公的所有であるか、もしくはそのコミュニティに委託されるものである。



エベネザー・ハワード(1850~1928)

『TOMORROW』(1898年)

『GARDEN CITIES OF TOMORROW』

(1902年)

“住宅と職場(工場)を含む、ヒューマンなスケールを持つ自立した共同体組織”(彼の描いた田園都市)

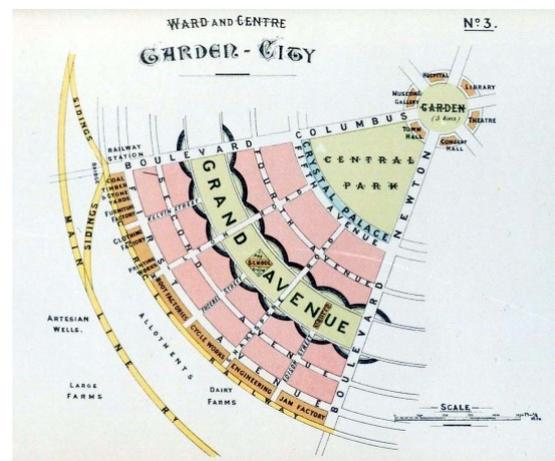
“田園の中に緑に囲まれた都市を作ろう”

レッチワースに最初の田園都市建設 1903 年

賛同者：建築家バリー・パーカー、レイモンド・アンウィン、ユートピア思想家ウィリアム・モリス、作家バーナード・ショー、工場主ジョージ・キャドバリーなど。

時代背景：産業革命後急速に工業化した社会は過密で不衛生な都市を生み出し、無制限に郊外へ広がり、人々は深刻な都市問題に直面。

「都会と田園が共存できる町ができないか、両者の長所を併合して産業と生活が共存できる町ができないか、ということを構想したのがエベネザー・ハワードです」(平成 12 年 9 月 大船田園都市を学ぶフォーラムにて 藤谷陽悦氏 日本大学生産工学部)



3. 日本の田園都市運動

日露戦争後の日本は、…人口が集中した都市においては、道路など都市施設の貧弱さ、絶対的な住宅不足と環境の悪さなど先に産業革命を経験した欧米諸国同様の深刻な都市問題をかかえていた。

○ 内務省地方局有志編纂『田園都市』（明治 40 年）…我が国最初の「田園都市」文献

（A.R セネット『田園都市の理論と実践』をもとに、日本の農村立て直し、地方振興の啓蒙書として利用された）

○「都市研究会」の活動 大正 6 年発足（官民合同組織）

- ・ 初代会長：内務大臣後藤新平
- ・ 都市計画法（大正 8 年）制定、震災復興に尽力（帝都復興）
- ・ 理事：池田宏（内務省土木局）・佐野利器（東大教授）ほか
- ・ 「都市公論」大正 7 年 4 月～昭和 20 年 1・2 月

○啓蒙書 建築家大沢三之助の「ハムステッドガーデンサブ」報告（明治 45 年 3 月『建築工芸叢誌』）

『都市の研究』（明治 41 年三宅馨）・『都市経営論』（大正 11 年池田宏）・「住宅」田園都市号大正 8 年

『都市計画図集』（大正 11 年大阪市役所都市計画部）・『文化村の簡易住宅』（大正 11 年洪洋社）

★海外の田園都市を見学した人たち

大沢三之助（建築家 イギリス ハムステッド明治 40 年前後）

生江孝之（社会事業家 明治 41 年にレッチワース訪問、ハワードに会いその人柄にふれる『わが九十年の生涯』）

渡辺六郎（東京渡辺銀行取締役 明治 45 年～46 年 イギリスほか欧米外遊 建設中のレッチワースにも？）

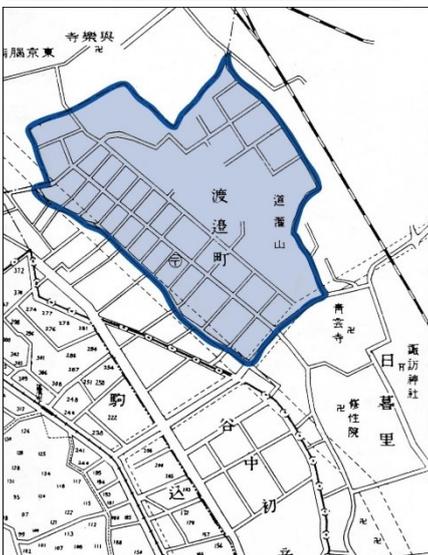
渋沢秀雄（実業家 大正 8 年～9 年 レッチワースはまだ建設途上で寂しい風景…サンフランシスコ郊外でエトワール式道路に感銘を受ける）

4. 東京の郊外都市

- ・西片町（文京区西片 明治 5 年 阿部様）
- ・神田三崎町（千代田区三崎町 明治 23 年 三菱）
- ・桜新町（世田谷区中南部駒沢 大正元年 三井系東京信託）
- ・黒沢村（大田区新蒲田 明治 45 年 タイプライター工場村）
- ・渡辺町（荒川区西日暮里 大正 5 年 東京渡辺銀行）
- ・大和村（文京区本駒込 大正 10 年 三菱財閥 岩崎久弥 建築家佐野利器）
- ・目白文化村（新宿区中落合 大正 11 年 堤康次郎）
- ・田園調布（千足、多摩川台 大正 11 年 12 年 渋沢栄一）
- ・城南文化村（豊島区向山 大正 13 年 城南田園都市組合）
- ・大泉学園（大正 13 年 14 年 堤康次郎）
- ・小平学園（小平市 大正 13 年 戦後 堤康次郎）
- ・国立大学町（国立市 大正末 堤康次郎）
- ・成城学園（世田谷区成城 大正 14 年 教育者小原国芳）
- ・玉川学園（町田市 昭和 4 年 教育者小原国芳）
- ・常盤台（板橋区常盤台 昭和 11 年 東武鉄道）

（鹿島出版会 山口廣編『郊外住宅地の系譜』昭和 62 年より）

5. 日暮里渡辺町から大船田園へ



江戸時代佐竹侯（秋田藩主）の名園が広がっていた道灌山下一帯は明治期に入り、荒れ放題となっていた。大正 4 年にこの荒れ地を買い取った渡辺治右衛門が、欧米の都市を視察研究の上、文化村「渡辺町」を建設（3 万坪）。昭和 20 年の空襲でほとんど焼失した。

渡辺町の多彩な住民

石井柏亭（洋画）、長野草風（日本画）、石川確治（彫刻）、建畠大夢（彫刻）、久保田万太郎（作家）、野上豊一郎（法学者）、野上弥生子（作家）、ちもと（菓子司）、山崎覚太郎（工芸）、野島信（能）、樺島礼輔（実業家）、前田松韻（建築家） その他

建築家フランク・ロイド・ライトの訪問（『渡辺六郎家百年史』渡辺秀）

← 昭和 7 年実測図



日暮里道灌山から大船へ移転の日
1924年（大正13年）9月
六郎氏37歳（『渡辺六郎家百年史』より）

渡辺六郎（春宵）氏の趣味
写真・水彩画・日本画・油絵・版画
ハイキング・旅

1911年（明治44）11月から1年間、
土地開発事業を学ぶためヨーロッパ・アメリカ
を外遊 渡辺四郎氏・六郎氏

6. 大船田園都市株式会社設立と大船



造成地を見分する「大船田園都市株式会社」（大正10年12月設立）役員達



株券（大正11年3月）

- ・田園都市は時代の産物なり
- ・当会社の予定地は大船なり
- ・大船はかくの如き特長を有す
- ・大船田園都市は新しき設計計画を有す
- ・当会社は新市街建設の経緯を有す
- ・大船田園都市は住居人に土地を譲渡するを目的とす
- ・当会社経営地は他に比して廉価に提供しうる
「趣旨書」より

大正10年（1921）12月 株大船田園都市の設立総会を日本工業倶楽部で開催

大正11年（1922）9月 第1期埋め立て工事が完了。資生堂ギャラリーで住宅設計競技優秀作品展開催。

11月「新鎌倉さつき街区」の第一回売出開始 12月『田園住宅図集』刊行

大正12年（1923）3月 付属新鎌倉農園を開園。各通り街区に銀杏樹移植。水源地にタンク据え付け

9月 関東大震災 11月当社事務所を鎌倉郡小坂村地内新鎌倉出張所に移転。

付近一般民家の震災復旧工事に従事

大正13年（1924）9月 渡辺六郎氏日暮里より新鎌倉住宅に移転

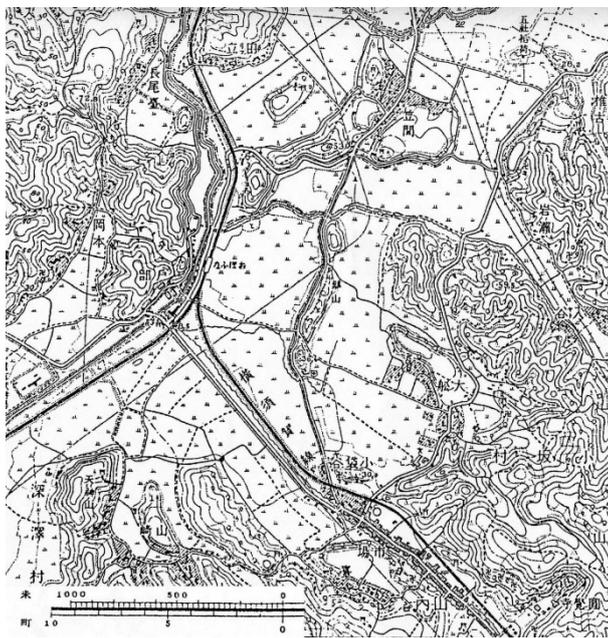
12月 社営新鎌倉「マーケット」華々しく開店

大正14年（1925）9月 鎌倉郡畜産組合へ計画地内一部を競馬場として貸与

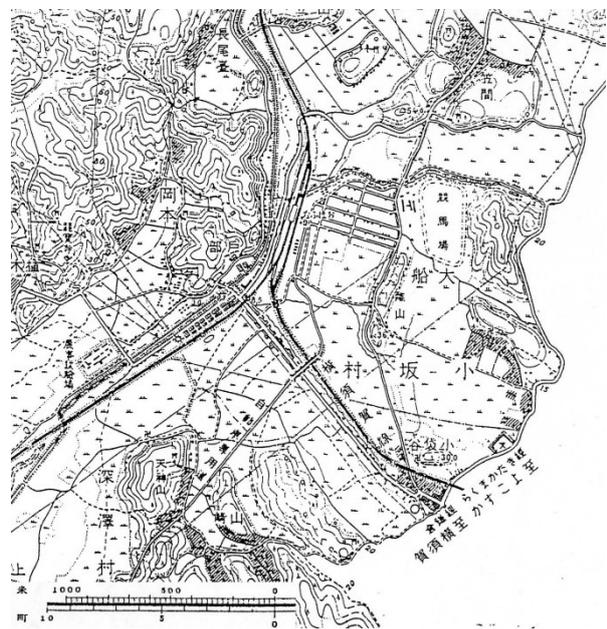
新設テニスコート（駅前）にて第1回神奈川県下テニス大会開催

- 小坂小学校・玉縄小学校の増改築、鎌倉市内商店建築に従事
- 大正 15 年 (1926) 11 月 大船駅東口乗降口が開通。開業式を行う。
委託設計監督の小坂玉縄村組合村役場新築工事落成引き渡し
- 昭和 2 年 (1927) 3 月 親会社の東京渡辺銀行が営業停止。
10 月 当事務所にて土地所有者の茶話会を開き土地発展策を協議
- 昭和 11 年 (1936) 4 月 渡辺家自家奉祇の花園稲荷を田園都市内に山蒼神社として建立
- 昭和 15 年 (1940) 6 月 株主総会にて解散決議。精算事務を施行

株主名簿 役員：社長 渡辺勝三郎（東京渡辺銀行） 取締役 渡辺六郎（東京渡辺銀行）
越山太刀三郎（東京電燈） 福原信三（資生堂・帝国生命） 樺島礼吉（東京電燈）
甘糟準三（大船地主 医師） 支配人 麻生篤之助
監査役 鈴木茂兵衛（東京府農工銀行頭取） 栗田繁芳（岩瀬地主）
株主 171 名 40000 株 地元 38 名 3810 株 東京他 133 名

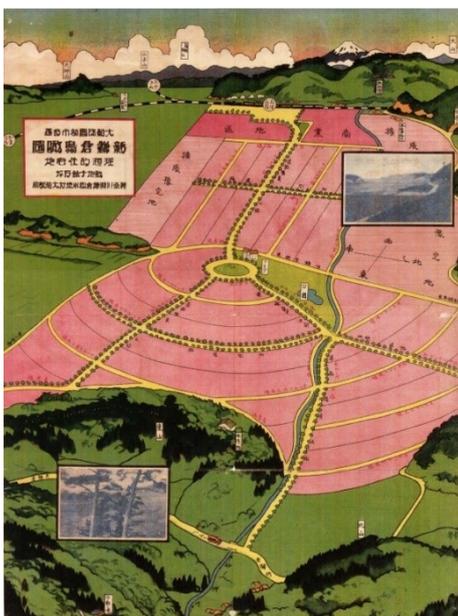


大正 10 年陸地測量部測図 田園都市開発直前



昭和 8 年 田園都市の街区が出来上がり、家がポツポツと建ち始めている

7. 新鎌倉の都市プラン



「大船田園都市
計画図案」大正
11 年 (『田園住宅
図集』より)

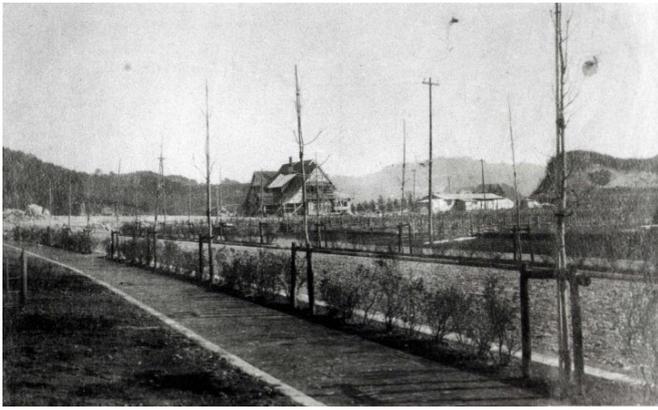


東山全体は風
致公園
散歩道・テニス
コート・野外劇
場・水源地(井
戸)

中心に「タ日ヶ丘」
ロータリー・クラブハ
ウス・小学校・運動
場・共同倉庫など
人の集る場所に

駅前商店・工場・倉
庫・車庫・テニス
コート

K.Y. 山田馨
専属技師

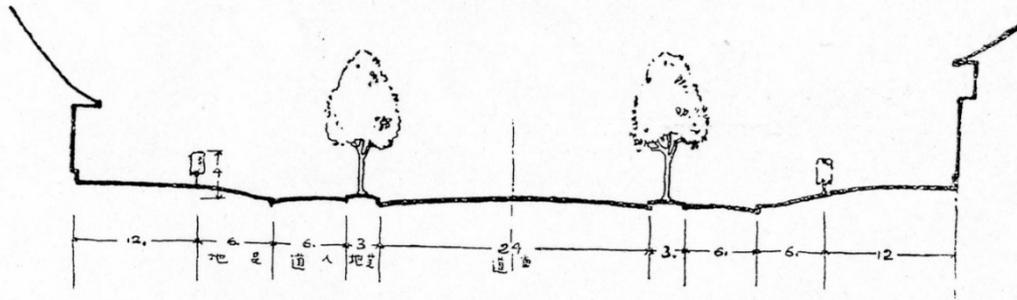


新鎌倉さつき本道ノ歩道舗装実況 建築中の渡辺六郎邸
銀杏とさつきの植樹が新しい。大正12年春



「新鎌倉さつき本道 タロヶ丘ヨリ停車場方面を望ム」
車道は砂利道、歩道はレンガ敷き

図計設面断通本さつき



建築物規定

☆田園都市は目先の事ばかりでなく永遠の事も考えていろいろと施設を加えて置かねばなりません。

☆田園都市というものは閑静ということと同時に愉快なる住宅地、すがすがしい心持にする町に

☆せめて前庭だけは圍障を低くして、中を見られて困るという小さな感をお互いに明るい快い町に住むという大きい長所のためにすていかねばならない。

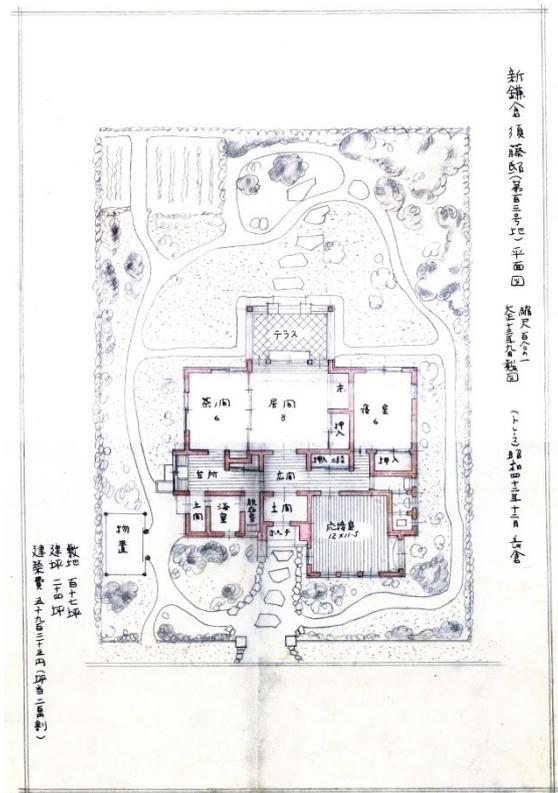
- 1, 建物の外観は全て洋館にする。
- 2, 建物の建築面積は宅地面積の三分の一を超えてはならない

.....

『田園住宅図集』より

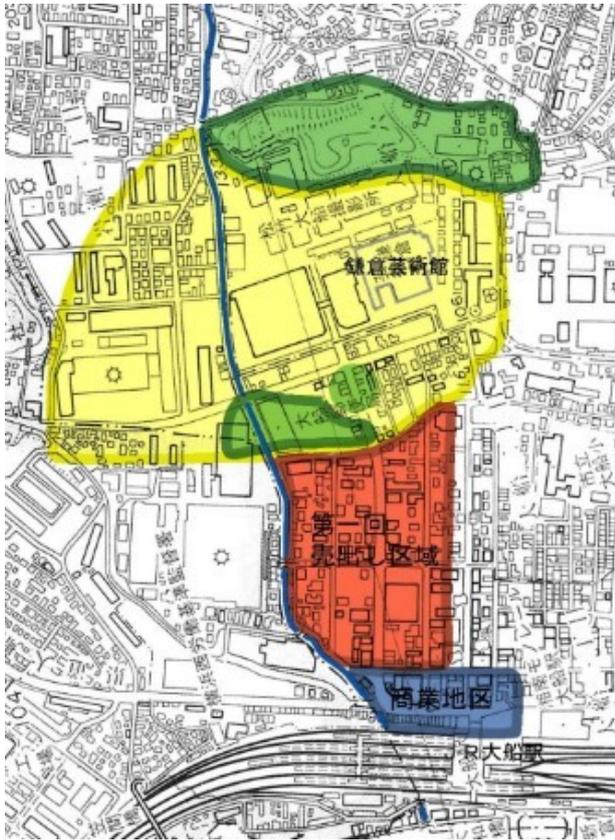


須藤邸外観正面

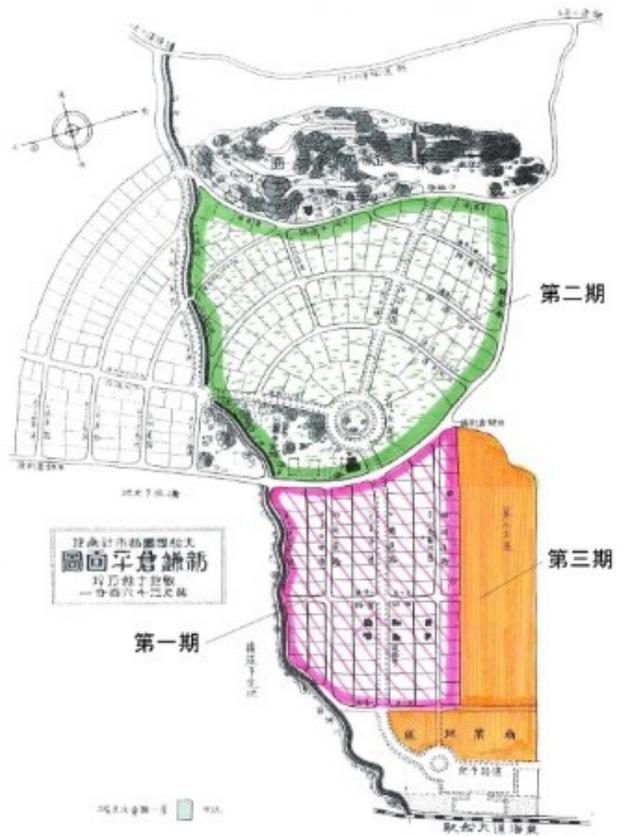


新鎌倉須藤邸(第一号)坪面図
建築家 須藤南雄
昭和三年五月六日

敷地 百七坪
建坪 二四坪
建築費 五千四百五十円(内古三割)



現在の地図と比較



土木工事
第1期・第2期・第3期



大船田園都市遠望 昭和4年頃 (『日本地理大系』)



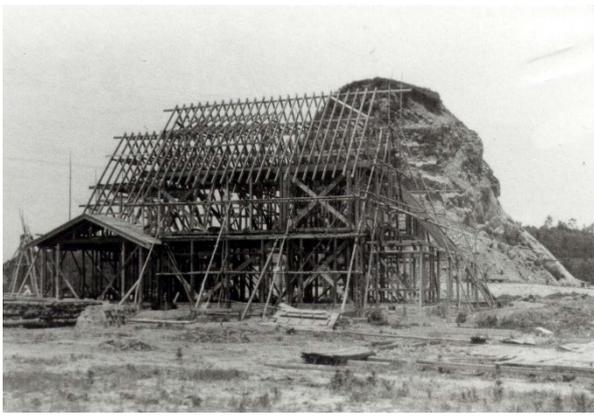
昭和10年代 はるか後方に松竹正門



夕涼み



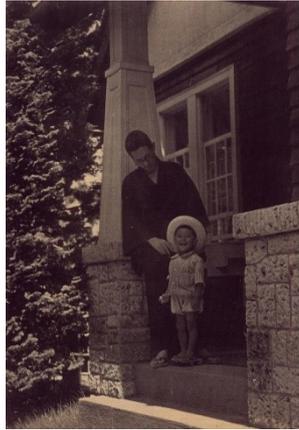
さつき本通り東端



建築中の渡辺邸（夕日丘）



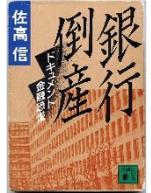
自家用車シトロエンの前で



幻の田園都市から
松竹映画都市へ

8. 松竹映画都市へ

東洋のハリウッドたる大船市街地出現— 昭和9年4月22日地鎮祭、昭和11年1月6日
蒲田から36台の車を連ねてパレードよろしく新天地の大船撮影所へ入場した。（「分譲地の榮」）



大船駅東方に木々に囲まれた田園都市を望む。（昭和10年）
山裾に建設中の松竹大船撮影所が見える。



歌人 太田水穂

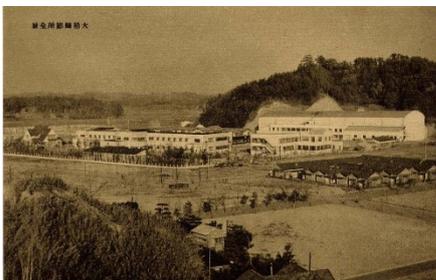
松竹撮影所（昭和12年）

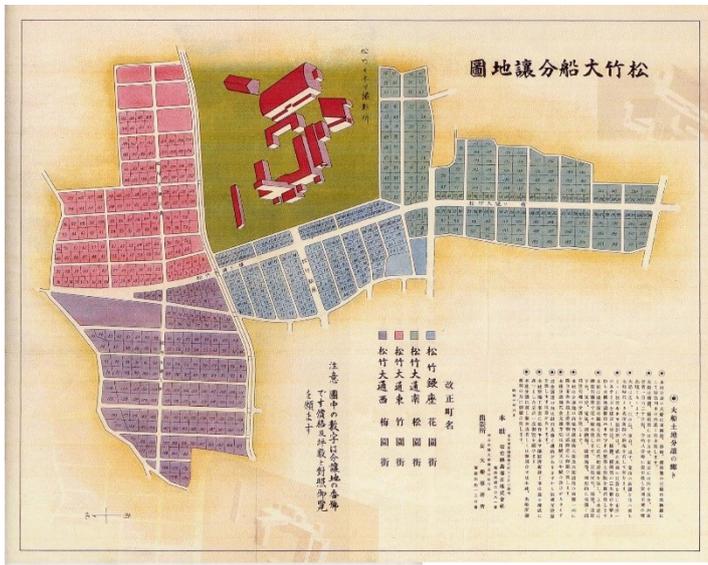
このあたり丘も町屋も観音も野外撮影のセットめきてみゆ
洋装の爪先かろきハイヒール白き門口より楚々といでくる

歌人 四賀光子

資本の力（昭和12年）

正月大船映画都市計画地に遊ぶ
さねさし相模は古き国土の野をきり拓き映画都市立つ
七百年の精舎くづれてゐる村を目の前にして映画都市たつ
相模野やたづきもあらぬ原中にごく資本の力をぞおもふ





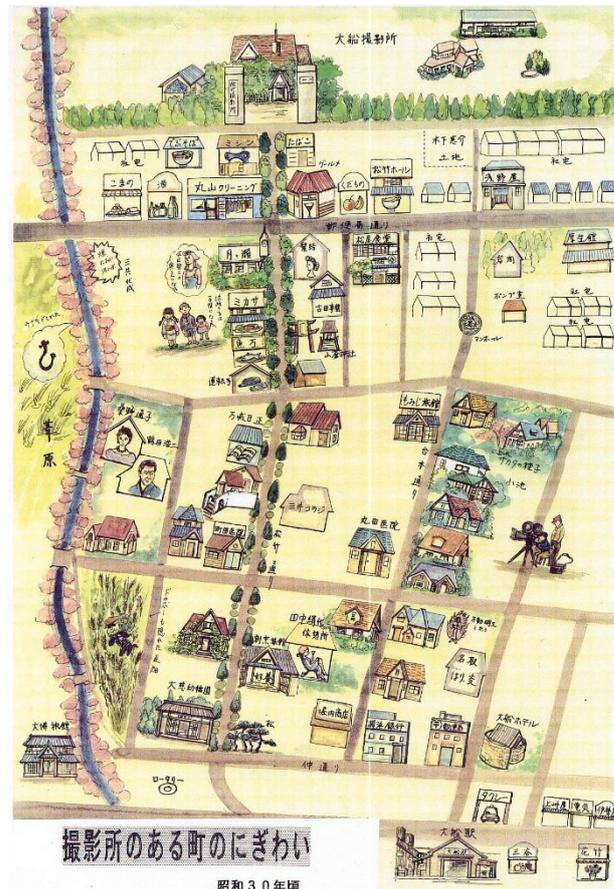
俳優池部良の出征祝い



松竹撮影所に移築された渡辺邸



曳家（ひきや）の様子





大船駅東口
昭和 43 年



旧小坂玉縄組合村役場外観

震災復興中の組合村では臨時予算を組んで役場建築に取り組んだ。木造階建。階下 49 坪、階上 35 坪（会議場）大正 15 年秋新築落成。村長は大船田園都市株式会社取締役を務めた甘糟準三氏。（『小坂村玉縄村組合会会議録及議決録』大正 15 年・昭和 2 年参照） 建物内部のデザインに大正時代に流行した建築様式ゼセッション（分離派）の影響がみられる。階段親柱など。

9. 田園都市構想の未来

- 大平正芳の「田園都市国家の構想」（1980 年 橋本武 財団法人日本開発構想研究所）※
- 日本型田園都市構想—イギリス田園都市と比較し京田辺氏を見直す—2001.12 西村利也
- 大平正芳内閣の「田園都市国家構想」と戦後日本の国土計画（2015 年 竹野克己 Hosei University Repository ）
- 大原孫三郎の田園都市構想と倉敷の都市計画 中野茂夫（『空想から計画へ』中川理編 2021 年）
- 岸田内閣 「デジタル田園都市国家構想」

※

田園都市構想の考え方

地域の自主性と個性を生かしつつ、均衡のとれた多彩な国土を形成するための究極理念であった。大平「私は、都市の持つ高い生産性、良質な情報と、民族の苗代ともいべき田園の持つ豊かな自然、潤いのある人間関係とを結合させ、健康でゆとりのある田園都市づくりを進めてまいりたい…緑と自然に包まれ、安らぎに満ち、郷土愛とみずみずしい人間関係が脈打つ地域生活圏が全国的に展開され…均衡のとれた多彩な国土を形成しなければなりません。…」

二分法的思考法を越えて：「分散=集中型」国家システム

鈴木大拙の「即非の論理」を例示し、単純な二分法ではなく、「分散することによって集中し、集中することによって分散する」日本文化の伝統的思考の必要性。

理念と施策の落差

戦略的施策の不在：計画論としての欠陥

「戦略的施策」（骨太の方針）が極めて弱い

地域の主体性：事業論と制度論

「地方の時代」の揺籃期にこの構想を批判するのは欲張りすぎかもしれないが…

日本の国家システムの在り方に関する深い洞察を踏まえた優れた理念を提示したが、具体化する骨太の戦略が描かれなかったので…考え方そのものはその後の我が国に確実に定着した。